

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第3区分

【発行日】平成20年12月4日(2008.12.4)

【公表番号】特表2008-528758(P2008-528758A)

【公表日】平成20年7月31日(2008.7.31)

【年通号数】公開・登録公報2008-030

【出願番号】特願2007-553128(P2007-553128)

【国際特許分類】

C 10 L 1/06 (2006.01)

C 10 L 1/182 (2006.01)

C 10 L 1/188 (2006.01)

【F I】

C 10 L 1/06

C 10 L 1/182

C 10 L 1/188

【手続補正書】

【提出日】平成20年10月16日(2008.10.16)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0040

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0040】

Table 2 及び図 2において示されるように、含酸素ガソリン中に RVP 低下化合物を加えると、混合物の相対吸光度に対して大きな影響を与える。この影響は、異なる RVP 低下化合物によって変動するが、相対吸光度におけるかかる変化は、驚くべき RVP 低下効果を与える成分間の相乗的な相互作用を示す。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0063

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0063】

[比較例B]

比較例 A からの好適な酸素化剤を試験して、比較例 A の無鉛レギュラーガソリンブレンドストックと配合するためのそれぞれの化合物の RVP 配合値を測定した。ガソリンブレンドストックの RVP は、ASTM D5191 にしたがって測定して 59.5 kPa と測定された。それぞれの酸素化剤を、示された容量 % でガソリンブレンドストックと配合し、得られた含酸素ガソリンの RVP を同様の方法で測定した。試験した特定の化合物及び用いた材料の容量 % を、下 Table 4 に示す。次に、示された容量濃度に関する酸素化剤の RVP 配合値を算出し、結果を Table 4 に示す。